

援護基金

機関紙第88号
(令和7年8月)



向日葵 (photo by W.F)

公益財団法人

中国残留孤児援護基金

◆第45回臨時理事会（決議の省略）

令和6年12月に第45回理事会が書面開催され、令和6年度補正予算案（首都圏中国帰国者支援・交流センター普及啓発事業で使用する映像の制作予算が国から追加された）は、事務局原案通りに承認されました。

◆第46回理事会

令和7年2月27日に第46回理事会が開催され、令和7年度事業計画及び予算案が事務局原案通り承認されました。

◆第20回臨時評議員会（決議の省略）

令和7年2月に第20回臨時評議員会が書面開催され、日本橋税務署から源泉所得税の誤徴収の指摘を受け、「評議員及び役員の報酬並びに費用に関する支給基準」の徴収税額等の改正案を諮り承認されました。

◆第47回理事会・第21回評議員会

令和6年度事業報告・決算を承認
任期満了に伴い評議員会で次期理事及び
評議員1名（増員）を選任

令和7年6月6日に第47回理事会が、6月24日に第21回評議員会がそれぞれ開催され、令和6年度事業報告、決算報告及び監査報告が原案通り承認されました。

理事は本評議員会終了時点で任期満了のため、理事及び評議員1名（増員）が選任

されました。

鶴 精三理事が任期満了を以て理事を退任することとなり、後任に芦田真吾氏が理事に選任され、長年お務めいただいた鶴理事には理事長から記念品の目録が手渡されると温かい拍手がおくられました。

評議員では、新たに加川博明氏1名が増員で選任され評議員7名体制となりました。

◆第48回臨時理事会（決議の省略）

理事長に炭谷 茂氏を選定（再任）
常務理事に新津 浩平氏（再任）に決定

令和7年6月24日に第48回臨時理事会が開催され、理事長（代表理事）に炭谷理事が選任され、常務理事に（業務執行理事）新津理事が選任されました。

記念品目録の贈呈



第47回理事会

◇援護基金人事◇

就任（令和7年4月1日付）

東海・北陸中国帰国者支援・交流センター

所長 常務理事兼任

新津 浩平

目次

第45回～第48回理事会（臨時・決議の省略）表紙裏	第20回～第21回評議員会（臨時・決議の省略）表紙裏
戦後80年 人と人をつなぐ	日本人孤児 烏雲先生と先生を支える人々
令和7年度団体助成事業	令和7年度老後支援事業
令和6年度事業報告・決算報告の概要	令和6年度寄附者芳名録
評議員及び役員名簿	介護関連資格取得奮闘記
介護支援専門員実務研修受講試験合格	真尾涼子さん（二世）
令和7年度教材開発・出版事業のご案内	東海・北陸支援・交流センター便り
首都圏支援・交流センター便り	
24 頁	23 頁
20 頁	17 頁
13 頁	14 頁
11 頁	9 頁

戦後80年
人と人をつなぐ
日本人孤児 烏雲先生と
先生を支える人々



たちばなたまみ うゆん

立花珠美(烏雲)さんは中国の内蒙古に住んでいて永住帰国はしておりません。援護基金が国から委託された集団一時帰国事業に、平成19(2007)年から参加されており、直近では、昨年令和6(2024)年9月の集団一時帰国に参加されました。残念ながら今年は参加される予定はありません。

生まれ故郷の徳島への親族訪問に基金職員が同行すると、徳島空港には立花珠美さんの到着を待ち遠しく思われている方々が親族以外にもたくさんいらつしやることに気づかされます。

いただいた名刺から、いずれも中国での沙漠緑化や教育支援に携わる方々と想像されましたが、珠美さんの兄 立花 甫(はじめ)さんが編集された

珠美さんに関する資料からも中国残留孤児の肉親捜しとその後の一時帰国だけには留まらない、親族の範囲を超えた珠美さんを中心とする人と人の広範囲の温かなつながりが生まれていて、徳島はその中心地となっていると伺えます。

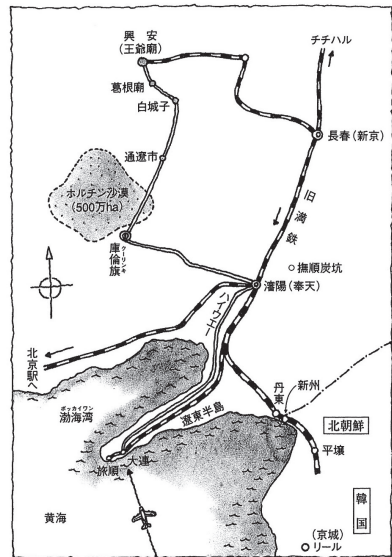
珠美さんのお人柄をご存じない人のため、徳島県の関係者が編集した資料を基礎として、省略しながらご紹介します。その後に、烏雲先生と信頼の絆で強く結ばれた人々が一緒に成し遂げた様々な事業について触れたいと思います。

立花珠美さんの生い立ち

珠美さんは、徳島市で昭和13(1938)年に生まれました。父母と兄姉、弟の仲良し6人家族で、昭和15(1940)年に渡満しましたが、兄だけは中学受験のため日本に残りました。

中国満州での暮らし

立花さん一家は王爺廟(現在の烏蘭浩特市)という大きな町で豊かに暮らしていました。父親は公務員として役所に勤めましたが、給料は日本の5倍以上もあったそうです。



農業に携わった人たちもよい農地からたくさん収穫を得ることができて、「素晴らしい満州」を実感していました。珠美さんはモンゴル馬やロボも上手に乗りこなして遊んでいたそうです。

豊かな暮らしができた日本人に対して、現地の人たちは農地を取り上げられたり、家の立ち退きを迫られたりしていたいへん苦しい生活でした。

立花珠美さん孤児となる

昭和20(1945)年8月14日、楽しい生活をしていた立花さん一家を悲劇が襲います。ソ連の軍隊が立花さん一家の住んでいた王爺廟に攻め込んで来たのです。父親は遠くの通遼へ出張中でしたが、ソ連軍により鉄道が爆破されたため帰ることがで

きませんでした。
立花さん一家は、200人ほどの日本人女性や子供の一群とともにラマ教の聖地である葛根廟へ逃れようと列をなして歩いていました。王爺廟から30km付近でソ連軍の戦車に包囲されて銃撃を受け、立花さん一家は珠美さんを除いて無残な死を迎え、珠美さんは孤児となりました。

優しい二組の養父母

歩いても歩いても死体の山でしたが、その中で三、四日、死体の中から食べ物を探して食べたり、血の混じった水を飲んだそうです。



養母の王秀廷さん(左)と
烏雲先生

ひとりぼっちとなった珠美さんは、二人の中国人の老人に張さんという人の家に連れて行ってもらい、張さ

んが立花珠美さんの最初の養父母となりました。

孤児となった珠美さんを張さん一家に育ててもらいました。張さんの家は四人の子供がいてとても貧しい家でしたが、夫婦は自分の子供のよう
に育ててくれました。しかし、一家の生活はとても苦しく十分な食事もできない毎日でしたので、珠美さんは第二の養父母にお世話になります。

第二養父母の養父はモンゴル族のアラタンオチラさんで軍人でした。養母は漢民族の王秀廷さんといいます。この夫婦には子供がいま
せん。張さん一家がたいへん貧乏なので張さんと相談して珠美さんを引き取ってくれたのです。珠美さんはモンゴル族の一人としてお世話になることになりました。

アラタンオチラさん一家も珠美さんを実の娘のように愛してくれました。養父は教養のある人で、養母はとてもよく働く人でした。

養父母は珠美さんを、モンゴル語の名で「烏雲」と名付けました。モンゴル語で「賢い」という意味です。

養父は、烏雲さんにモンゴル語、中国語を教え、また乗馬もしつかり教えました。

養父は軍人をやめ農業をすることになりましたが、当時中国の農村部はたいへん貧しく、農家の子供で学校へ行く子供はいませんでした。で

も、養父母は烏雲さんを学校に行かせてくれたのです。養父母は、烏雲さんを育て勉強させるためにたいへん苦労しました。当時、大学進学する人がほとんどいない中、養父母は、内蒙古師範大学へ行かせてくれました。

「烏雲先生は、お母さん先生」

昭和32(1957)年、烏雲さんはいへん優秀な成績で内蒙古師範大学を卒業して教師となりました。ホルチン沙漠の近くにある勤務先の庫倫旗第一中学にはモンゴル族の生徒がたくさん勉強しており、生徒から「バクシー(モンゴル語で先生の意)」と呼ばれてうれしいような恥ずかしいような気持ちになったそうです。

寄宿舎で生活しているクラスの生徒に、体が小さく痩せて目が大きい女の子がいました。勉強時間は手をあげず、休み時間も他の友達が走り回っていても、教室の隅で外をじっと見ているだけでした。服はとても汚れて破れており、靴も靴下も穴が開いています。家がとても貧しいのです。

烏雲先生は、その子供を自分の家に連れ帰りました。「先生とても寂しいから一緒に来てね」と話し、お店で新しい服、下着、靴下から靴まで買い揃えてあげました。その子はだ

んだん元気になり、学校で次のように話をしました。「私は、親に捨てられました。今の両親が私を拾って育ててくれました。貧しい中こうして学校に入れてくれて、これからしっかり頑張ります。」



ホルチン沙漠

烏雲先生はその子を抱きしめて言いました。「私もそうだったのよ。日本人の戦争孤児なのよ。」

その言葉を聞いて、生徒たちは驚きました。

「先生、日本人だったのですか。」

私たちはモンゴル族と思っていました。」烏雲先生のモンゴル語がたいへん上手で、馬に乗るのも学校で一番だったので、生徒たち全員が烏雲先生をモンゴル族と思っていたのです。

烏雲先生は、生徒たちのことを思い、寄宿舎から家に帰るお金のない子供にはお金を与えました。寄宿舎

の掃除もしてあげて、「おねしょ」をして下着をぬらすのを見つけると、黙って洗濯してあげました。受け持ちの生徒だけでなく、学校全体の生徒たちのことも大事にしました。烏雲先生は、いつのまにか「エージ・バクシー」と呼ばれるようになりました。それは、モンゴル語で「お母さん先生」という意味です。

昭和33(1958)年、烏雲先生は、同じ学校の馬振源先生と結婚します。とても仲が良く翌年女の子が、翌年には男の子が生まれました。こうして学校の「エージ・バクシー」は本当のエージ・バクシーになりました。

学校で一所懸命に働き、恵まれな生徒たちを家庭に連れて来てはお世話を続けました。

昭和41(1966)年、幸せな家族を一つにつぶすような悲しい大事件が起こります。文化大革命です。

文化大革命と烏雲先生

文化大革命が発生して、中国の古い文化やしきたりを壊して新しい中国を作ろうという運動ですが、良いものも壊していきました。大学の先生は大都市から追放され、外国人も追い出されました。約十年間続きましたがこの運動は失敗しました。

この運動の中で、「烏雲は日本人だ。中国から追い出せ。」という大きな声が起こりました。勤めていた庫倫旗第一中学へも「烏雲を追い出せ。ここへ引き出せ。」と迫って来ました。生徒も先生も、烏雲先生が日本人孤児であることを知っていました。『烏雲先生はモンゴル族だ。モンゴル人だ。日本人とは違う。』と言って烏雲先生を守りました。それだけ、烏雲先生は皆から慕われ、尊敬されていたのです。

烏雲先生の養父母は、庫倫旗第一中学から200キロも離れたところに住んでいましたが、養父母の所へも「烏雲を引き渡せ」と強く迫って来たのです。養父母は運動をしている人たちから拷問を受けて、養父はそれが原因で早く亡くなりました。養母も足を傷つけられ、その後も不自由な歩き方をしていました。また、「私は日本人のスパイでした。」というプラカードを首にかけて歩かされました。「日本人孤児を育てた悪人」と責められ続けても、養父母は「烏雲はモンゴル族だ。日本人とは違う。」と言って守り通したのです。

この文化大革命は、烏雲先生を守り通した養父母の人生を狂わせてしまいました。養父母や烏雲先生の周囲の人たちのおかげで現在の烏雲先生がいるのです。烏雲先生を守り通したモンゴル族や漢民族の温かい

心が、烏雲先生の一生を決めることになりました。

大草原に生きる先生を目指して

文化大革命は、昔からあるお寺や学校を壊してしまい、学校で勉強ができなくなりました。烏雲先生は、手作り黒板を持って草原の家々を回って子供に勉強を教えました。モンゴル族の子供が住んでいる家は、広い草原の中にボツンとあり、学校からたいへん遠い所にあります。毎日子供の家を訪ねて勉強を教えに行くと、子供や親は大喜びで待っています。その頃、烏雲先生は肺結核に罹り入院をしなければならなくなりました。12歳と10歳の子供がいて困っていると、学校の先生方が「子供さんたちは、私たちが世話します。心配しないで早く病気を治してください。」と競って言ってくれました。

先生の病氣入院を知った子供たちや親は、次から次へとお見舞いに来てくれました。子供たちは貧しい暮らしをしていましたが、少ないお金の中から、卵やリンゴを買って持ってきてくれました。成人した教え子の中に、包玉山という若い医師がいて、彼は「私が医者になったのは、お母さんのおかげです。どんなことがあってもお母さんの病気を治しま

す」と言って、高価な薬で治してくれました。包玉山先生は給料のほとんどを薬に使い、烏雲先生の病氣は、驚くほど早く治りました。

この包玉山は、12歳の時、養父に連れられて初めて庫倫旗第一中学へ来たのです。その時、中国語は全く話せず、烏雲先生は寄宿舎に入れ必死で勉強を教えました。頭のよい子でしたので力を付けていき、最後は烏雲先生の家に引き取って我が子のように育てました。温かい烏雲先生への感謝の気持ちが先生の病気を治してくれたのでしよう。

退院の日、烏雲先生は固く誓ったそうです。「私は自分のことは考えず、草原で暮らす子供たちのために、私の心と体をすべて捧げよう。」と。烏雲先生は、馬振源先生と結婚し



内モンゴル自治区・ホルチン沙漠（略図）

た頃から、包玉山だけでなく貧しい家の子供たちを自宅に招いて食事をしたり、勉強のためにお金を出してあげたりしていました。自分の病氣が治ってから、病氣の子供を家に連れて帰り、看病したり、寄宿舎に泊まり込んで子供たちの面倒を見ていました。烏雲先生の元には親や子供が引つ切りなしに訪ねて来て、とてもいそがしくしていて、仲間の先生も烏雲先生を応援して草原で暮らす子供のために頑張っていました。

日本の家族との再会

昭和47(1972)年、日本と中国は国交を回復しました。国交回復後、中国に残された日本人孤児の肉親探しが始まりました。烏雲先生のいる庫倫旗にも肉親探しの話が伝わっていました。養父母は烏雲先生にこう命令をしたらそうです。

「烏雲、あなたは日本人だ。肉親を探さない。」

「あなたの両親もお前を探しているはずだ。親や兄弟を探そうとしな

いのは人間じゃない。」
養母の口から日本人という言葉が聞けるのは初めてでした。養父母の言葉は命令のようでしたが、とても温かい優しい心が感じられました。

ちょうどその頃、群馬県高崎市で貿易をしているモンゴル人のサンバラさんが庫倫旗に来ており、烏雲先生は孤児になった時の様子や父母の名前、立花一家の住んでいた王爺廟などの話をその方にしました。サンバラさんが中国語で書かれた烏雲先生からの手紙を日本語に翻訳して、日中孤児問題連絡協議会の郡司彦理事長に届けました。それを受けて、郡司さんは厚生省の担当者から立花さん一家が住んでいた町の日本人名簿を借りた中から父親の名前を見つけて、徳島県出身とわかったのです。

昭和55(1980)年、同じ徳島県出身で満州に暮らした方に和田福由さんがいて、引揚げ後徳島市に住み、日本モンゴル協会の理事として残留孤児の身元探しをしていました。和田さんは懸命の努力の末、父親立花正市さんを探し出しました。残念なことに烏雲先生の父親である立花正市さんは8年前に他界されていました。しかし、徳島市在住のお兄さんの立花甫さんは、勤務先で妹の立花珠美(烏雲)さんが生きていることを知って、大いに驚くとともに大喜びしたのでした。

41年ぶりの再会を果たしました。故郷徳島市に到着すると、「お帰りなさい。珠美さん」、「歓迎 烏雲先生」の幟が揺れて喜びの声が満ちあふれました。烏雲さんにとって、誰もが知らない人ばかりなのに、「珠美さん」、「珠美さん」と声をかけられたり手を握られたりして揉みくちやとなりました。

ようやく日本の生活に慣れた頃、地元の北井上中学校で内モンゴルの学校の様子や暮らしについて、通訳を介して珠美さんがお話することになりました。モンゴル族の服装で、沙漠の話や暮らし、養父母の優しさについて心を込めてお話し、平和の大切さを伝えました。

日本での仕事をお兄さんが見つけてくださいました。しかし、仕事を始めようと思った時に、養母からの手紙が届きました。その手紙には、烏雲先生を待ちわびる生徒たちの思いが綴られていました。何通も何通も烏雲先生に帰って来てほしいという願いがありました。養父母からは「元気でいるから心配しないで。生水を飲まないように気をつけて」、「お兄さん、お姉さんはやさしい人ですか。」年老いた養父母の手紙に、珠美さんは涙が止まりませんでした。

珠美さんは、このまま日本で暮らしてよいのだろうか。モンゴルが私を必要としている。今まで大事にし

てくれたモンゴルのために何かしたい。豊かなモンゴルになるように頑張りたいという強い願いが湧いてきました。

お兄さんの甫さんから日本に残るよう強く勧められましたが、孤児だった自分を育ててくれたモンゴルに帰りたいという珠美さんの願いで再び中国に帰ることになりました。日本に一時帰国したのは5カ月でした。昭和56(1981)年、珠美さんは、再び烏雲先生になりました。

模範教員となる

庫倫旗第一中学の周囲はホルチン沙漠で、農作物は育たず、砂地で草が育たないことから牧畜もできません。この地域の人々は経済的にとても苦しい生活をしていましたので、烏雲先生はこのホルチン沙漠を緑化して、農業、牧畜ができるように沙漠を豊かな草原にしようとの夢を持ちました。子供の教育には経済的に豊かになることが重要だと考えていたので。

子供の教育に真剣に取り組むとともに、沙漠の緑化で豊かな草原にすることが残留孤児を育ててくれた養父母や地域の人々への恩返しになると烏雲先生は考えていたのでした。こうした烏雲先生の沙漠緑化等の

取り組みが中国全土に知れ渡りました。平成3(1991)年、中国教育者で最高の賞である最優秀賞「全国教育者模範賞」が李鵬首相から贈られました。そして、中国全体で「烏雲先生に学ぼう」という教育運動が起こりマスコミで活動が紹介されました。平成4(1992)年は、日中国交回復二十周年を記念して、烏雲先生をモデルにしたテレビドラマ「大草原に還る日」が、日本のNHKと中国の中央電視台で共同制作され、大きな感動を呼びました。

平成5(1993)年には、中国人民政治協商會議全国委員(日本の参議院議員に相当)に選ばれました。

平成6(1994)年、烏雲先生は庫倫旗第一中学を定年退職しました。平成8(1996)年、地域の人たちの強い願いで、烏雲先生は庫倫旗第一中学の名誉校長に就任しました。

ホルチン沙漠を大草原に

中国人民政治協商會議全国委員時代、ホルチン沙漠や庫倫旗がある内蒙古地区は経済的に立ち後れていました。雨が少なく乾燥して草木の育ちにくい場所だったからです。

沙漠を昔のような大草原にするため、植林で森を作るところから始めて草原にしようと、烏雲先生は鳥取

大学砂丘研究所から研究資料を取り寄せて研究を始めます。

同じ頃、岩手県に本部を置く日本砂漠植林ボランティア協会の菊地豊会長が、「大草原に還る日」を見て、烏雲先生の想いに感動し、平成6（1994）年、烏雲先生の所に視察に来られ、烏雲先生が自分を育ててくれた中国の人々へ恩返しをしようと考えていることを知り、すぐにホルチン沙漠に植林を始め、最初に緑化する場所を「烏雲の森」と名付けたのです。



烏雲の森入口（植林開始7年目）

兄の立花 甫
さんも植林の話を知り、奥さんと二人で植林隊に参加されています。まだまだ時間はかかりませんが、やがて烏雲先生の目指したホルチン沙漠が緑化され緑っぱいのホルチン大草原になっていくことでしょう。

人と人が繋がり 沙漠に変化をもたらす

烏雲先生は植林活動の取り組みについて、埼玉県、福島県、岩手県等で講演して回り、福島県での講演会

には300人を超える聴衆が講演に感動しました。この講演を聞いた人の中に、立花 甫さんのお父さんの知り合いである木村義次さんがいて、知人四人と共に菊池さんの植林隊に参加された後、徳島砂漠植林ボランティア協会を作り、平成9（1997）年35人でホルチン沙漠で植林を開始しました。毎年20〜30名を超える人たちがボランティアとして烏雲の森へ向かい植林をし、希望者が多いときは年3回植林に行ったことがあるそうです。砂漠植林は、徳島県の人だけでなく、静岡県、千葉県、富山県、香川県、愛媛県その他全国各地から大勢の人が参加しています。全国各地の皆様の協力で25年間で緑化が終わる予定が、十数年で完了しました。



アコラ沙漠で植林

この間植えた木は、ポプラ、アカシヤ、榆、柳、黒松等ですが、育ちやすいポプラが一番多いです。また、畑にはトウモロコシや薩摩芋、豆類、稲も植えられています。

平成19（2007）年、烏雲の森の植林が終わり美しい森となると、今度は烏雲の森から少し離れたアコラ

沙漠で植林することになり、「第二徳島烏雲の森」と名付けました。「徳島烏雲の森」、「第二徳島烏雲の森」の植林は、大人ばかりでなく、小学生から高校生までたくさん日本の子供たちが夏休みに「砂漠植林緑の少年隊」として、中国の子供たちと植林したのでした。これは5年ほど続いたそうです。

今までに五百ヘクタール以上（東京ドーム100個分）の森を作りました。令和2年度に大勢のボランティアが参加して50回記念植林をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため中国に行けず実現できませんでした。今までの砂漠植林には、烏雲先生も毎回参加して楽しく植林をしていたとのことです。

温かい交流が生み出したもの

優しい養父母によって救われた命が、人を育む教師となり、その誠実な人柄と行動が文革期には人々をして烏雲先生自身を守る盾とならしめ、日本においては故郷徳島や日本各地の人々の心をとらえて実践の行動へ駆り立てたように援護基金職員は感じました。

人間味豊かな温かい人と人との交流が、荒涼とした沙漠に緑を蘇らせ、先生の小学校教育を充実させたいと

の純真な願いは、人を惹きつけて、多くの心ある人々による小学校建設、奨学金制度創設等へと向かわせることになりました。

続いて烏雲先生を支える団体をご紹介します。

烏雲先生の夢や活動を支える 徳島の各団体

NPO 法人

烏雲の森砂漠植林ボランティア協会

前身は平成9（1997）年4月創設の「烏雲の森徳島砂漠植林隊」で烏雲さんの父親の知人である木村義次さんたちが設立した。立花 甫さんは同協会の理事でもありました。



烏雲の森と畑（トウモロコシ）

烏雲の学校設立を支援する

徳島県民の会

平成9（1997）年、日本と中国

の温かい交流を願っていた加藤高明連合徳島会長たちが北京で烏雲先生に面会した際、「庫倫旗第一中学に日本語教室を作りたい。生徒たちに日本語を教え、日本を更に理解してもらい、日本と中国がいつそう仲良く



日本語教室開校式

していききたい。」との願いを聞き、平成10(1998)年、烏雲先生の養母の王秀廷さんと来日した時、加藤会長を中心に設立された「烏雲の学校設立を支援する徳島県民の会」から多額の日本語教室建設支援金が贈呈されました。翌年9月、庫倫旗第一中学に日本語教室二つが作られた。



愛陽小学校

育資金として現在も続いています。

内蒙古愛陽教育経済支援協会

烏雲先生の気持に応えて会員の募金で貧しい子供が無料で通学できる「愛陽小学校」を平成14(2002)年設立し、平成20(2008)年には、内蒙古で初めてのスクールバスを寄贈して、遠い所からの通学を可能とした。支援した生徒数は延べ1569名に及び、教育支援の目的を達したことにより令和2(2020)年に同協会は解散したが、経済支援を続ける目的で協会名をNGO内蒙古愛陽協会に改め、家畜の貸出事業等を通じて現在も支援活動が続いている。

徳島県労働者福祉協議会

互いの国を知ることが大切と、庫倫旗第一中学の生徒を日本に招待し、徳島市北井上中学校等の学校生徒との交流事業の運営は、同協議会の方を中心に徳島県民の協力で運営されています。

平成23(2011)年から令和元(2019)年までに、庫倫旗第一中学から18名の高校生と先生方が来れました。北井上中学校校庭には、「草原が私を育ててくれた。私は草原のために一生を捧げる」という意の烏雲先生直筆の石碑が建立されていて、中国からの先生生徒たちはそれを見て感動されたそうです。

駆け足でご紹介しましたが、様々な支援活動に善意で身を投じられた当事者の皆様は、人知れずいろいろなご苦労があつたかと思えます。

しかし、そうしたご苦労を乗り越えられて得られた成果は大きくたいへん貴重なものであることは間違いないと思います。

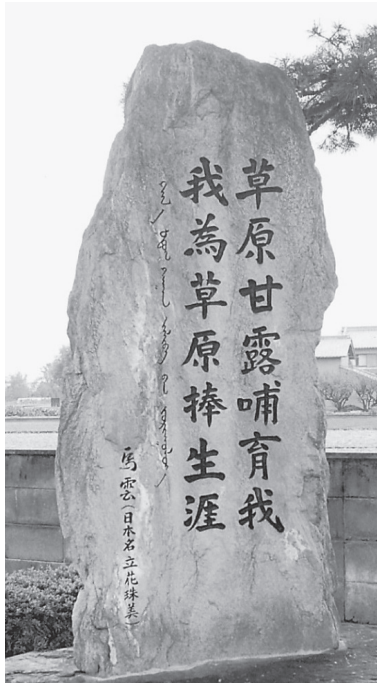
最後にこの記事を書くにあたり、冊子「大草原を夢見る烏雲先生」を資料提供にとのお願いにご快諾くださいました発行者 烏雲先生をたたえる市民の会と編集委員の皆様にお礼を申し上げます。

故生田 治夫様、岩佐 重明様

上田 勝久様、川越 敏良様

久積 育郎様、藤原 学様

皆様には一時帰国の親族訪問の都度、援護基金にたいへんな協力をいただきましたこと、併せてここに深く感謝いたします。



北井上中学校の石碑

终战80年

构建人与人之间
的纽带关系
——
遗华日孤——乌云老师
以及支援乌云老师的人们

立花珠美(乌云)女士现居内蒙古。自平成19(2007)年以来,每年在参加援助基金实施的集体短期归国事业期间,回故乡德岛探亲,很遗憾今年没有申请参加。

珠美女士不仅在遗华孤儿寻亲以及短期回国时,受到爱心人士热心地帮助,更重要的是以她为中心,人与人之间形成了超越血缘,彼此信赖的纽带关系。她的“通过沙漠绿化回馈养育之恩”的初心,感动了很多日本自愿者支援团体,长期以来提供支援并共同参与植树造林活动。

在此简略的介绍乌云老师的事迹及日本自愿者支援团体。

珠美女士生于昭和13(1938)年日本德岛市。昭和15(1940)年一家六口,除了哥哥以外,举家前往中国。当时住在东北地区一个叫王爷庙(今乌兰浩特市)的地方。

昭和20(1945)年8月14日苏联军队入侵,当时,父亲因公出差在外,由于苏军炸毁铁路无法回家。母亲带着他们几个孩子与大约2000名日本妇女和儿童,逃往

喇嘛教圣地葛根庙。在距离葛根庙30公里的地方,被苏军坦克包围并遭到机枪扫射,在场的家人全部罹难,珠美死里逃生,不幸成了孤儿。

在死人堆里度过了三天后,被好心的老人救助,送到了张姓人家收养,最终被养父阿拉坦·奥其尔与汉族养母王秀廷收养。

养父母将珠美视如己出。并给她起了一个蒙古名字叫“乌云”。蒙古语“聪明”的意思。养母勤劳善良,养父还教她蒙文、汉语和骑马。虽然生活拮据,却供她上学读书。

昭和32(1957)年,勤奋好学的乌云以优异的成绩从内蒙古师范大学毕业,被分配到库伦旗第一中学任教。

执教期间,关心爱护每一个学生,给贫困学生买衣服、鞋袜;住宿舍无钱回家,就资助路费;帮孩子们打扫宿舍,发现尿湿的内衣,还默默地清洗干净。慈母般的乌云老师受到孩子们尊敬和爱戴。被亲切地称为“额吉·巴科细”。蒙语“慈母老师”的意思。

昭和33(1958)年,乌云老师与同校教师结婚。一年后有了女儿,两年后有了儿子,成为真正的母亲。

然而,史无前例的文化大革命,给她的幸福家庭带来了深重的灾难。库伦旗第一中学也受到造反派们施加的压力,然而师生们挺身而出保

护她,使她免受冲击。她的养父母却被打成日本特务,受到了非人的折磨和迫害。

昭和47(1972)年,日中邦交正常化后,遗华日孤寻找在日亲属的活动随之展开。养母命令她寻找失散的家人。

蒙古族商人散巴拉先生及日本蒙古协会理事和田福由先生,伸出援助之手,帮助她寻找家人,经过不懈努力,终于找到了住在德岛市的哥哥——立花甫先生。

昭和56(1981)年8月,时隔41年,在德岛机场终于与哥哥重逢。



故乡的欢迎场面

探亲期间,珠美女士在当地的北井上中学,讲述自己的身世及养父母的恩情、学校的情况和沙漠现状,传达了和平的重要性。因为这次机缘,促成了后期北井上中学与库伦旗——中的跨国交流。这是后话。

在北井上中学的校庭,可以看到乌云老师亲笔题字的石碑,碑文写着:“草原甘露哺育我,我为草原捧生涯!”这正是乌云老师视草原如母亲,用一生去回报这片土地与人民的真实写照。来自中国的师生,看到这座石碑后,无不肃然起敬!

哥哥建议她留在日本。为报答养父母的养育之恩,为了盼望她早日回来的学生们,在日本逗留五个月,又返回了养育她的地方,成为受学生们爱戴的乌云老师。

库伦旗第一中学地处科尔沁沙漠地区,经济十分落后。乌云老师致力于儿童教育的同时,意识到经济繁荣对孩子们教育的重要性。她抱着将沙漠打造成大草原的梦想并付之以行动,来报答养父母及当地人民的恩情。

平成5(1993)年,乌云老师被选为中国人民政治协商会议全国委员会委员(相当于日本的参议院议员)。

平成6(1994)年,乌云老师从库伦旗第一中学正式退休。

平成8(1996)年,乌云老师被任命为库伦旗第一中学名誉校长。

在任全国政协委员期间,为了恢复沙漠昔日的大草原风貌,她特地向鸟取大学沙丘研究所索取资料,探讨沙漠绿化的可行性。大约在同一时期,岩手县的日本沙漠植树志

愿者协会菊池丰会长于平成6（1994）年来乌云老师所在城市考察，得知她想通过沙漠绿化，来回报中国人民养育之恩的心愿后，菊池会长立即启动了在科尔沁沙漠植树计划，并将第一个绿化区命名为“乌云森林”。



乌云老师为沙漠绿化所做的努力，在中国已家喻户晓。日中两国以她为原型，共同制作了电视剧「回归大草原的日子」，很多人人为之感动。

为了推广植树造林活动，乌云老师在日本多地讲演，在德岛县讲演时，木村义次先生也被她的情怀感动，成立了德岛沙漠植树志愿者协会，于平成9（1997）年开始在科尔沁沙漠植树造林。植树活动不仅有来自故乡德岛的县民参加，日本全国各地，甚至从小学生到高中生，利用暑假前去与中国孩子一起植树。

原预计25年完成的绿化计划，仅用了十余年就顺利完成了！营造森林面积超过了500多万公顷（相当于约100个东京巨蛋的面积）。人与人之间诚挚而富有人情味



绿色少年队

的交流，不仅让荒凉的沙漠重焕生机，乌云老师“充实小学教育”这一纯真的梦想，也吸引了众多有爱心的人士参与，推动了小学校建设和奖学金制度的创立。

以下介绍为实现乌云老师的梦想，而提供支援活动的德岛地区各个支援团体

「NPO法人乌云之森沙漠植树志愿者协会」

该组织的前身是于平成9（1997）年4月成立的“乌云之森德岛沙漠植树队”，由木村义次先生等人创立。立花甫先生曾任该协会的理事。

支援乌云老师设立学校的「德岛县民会」

平成10（1998）年，以加藤会长为中心，成立了“资助创建乌云学校的德岛县民会”，并向库伦旗一中赠款，开办了两个日语教室。

平成23（2011）年，德岛县民捐款设立“乌云奖学金”，资助贫困儿童受教育。

「内蒙古爱阳教育经济支援协会」

为了满足乌云老师的心愿，该协会于平成14（2002）年创办了“爱阳小学”，让贫困儿童免费上学；平成20（2008）年，捐赠了首辆校车，解决了偏远地区孩子上学难的问题。迄今为止受助学生累计达1569人。令和2（2020）年，将名称改为“NGO内蒙古爱阳协会”，继续开展支援活动。

「德岛县劳动者福祉协议会」

基于“了解彼此国家十分重要”的理念，从平成23（2011）年至令和元年（2019）年，先后邀请库伦旗一中18名高中生和教师，来德岛市北井上中学开展交流活动。

通过以上简介，我们看到惨绝人寰的战争，给日中两国人民带来深重灾难，作为遗产日孤，获得第二次生命的立花珠美（乌云）女士，不忘养育之恩，用行动回报养育她的草原，以她的人格魅力，吸引了更多的志同道合的爱心人士，参与各种支援活动。他们无私的奉献，令人钦佩和感动！

最后，衷心地感谢发行《乌云老师的大草原之梦》一书的乌云老师·市民会“一书”的以

下各位编委，在我撰写本文之际，慷慨地提供资料。

生田治夫先生、岩佐重明先生

上田胜久先生、川越敏良先生

久积育郎先生、藤原学先生

再次诚挚地感谢诸位对援助基金实施的集体短期归国事业方面给予的协助和支持！

（※因篇幅有限，中文翻译刊载的是缩写版，敬请各位理解和原谅！）



梦想沙漠变成这样的草原
（内蒙古的一处草原）

令和7年度 団体助成事業

◆はじめに

当基金では帰国した中国残留邦人とその家族を対象に、日本語教育、生活相談、福祉の向上を図るための援助活動等を行っている団体等に対してその事業を助成しています。

今回、今年助成二年目になる山梨県南アルプス市の「つなぐ会」（日本語教室、生活・就職相談）を紹介します。

昨年令和六年三月に設立し、援護基金では設立初年度から支援を始めたこちらの団体は、現在会員は三十四名（そのうち一世一名、二世二十二名、三世四名、一般七名）です。

この日は、会長西野美鈴さんと役員宝木蓮江さんの案内により南アルプス市櫛形社会福祉会館にて見学参加しました。

♥本日の参加者は十一名ですが、会の構成は二世の方が多いですね

今日一世は来ていません。地域に四名一世がいますが、会員は一名だけです。皆八十代半ばで老人ホームにいたり、体力的に難しかったりです。

今日の参加は二世六名、三世一名、一般三名です。南アルプス市、昭和町、甲斐市からですが、他に来

てない方で韮崎市、甲府市の方もいます。

山梨県は車がないと来られませんが、一番遠い方で三十分。車がない方は近所で誘い合って車で一緒に来ます。

今日も同じ団地だった会員が二十年ぶりに再会しました。ここに来て同じ団地、同じ職場の方と偶然会えて、互いに親交を温めるのです。

日本語サロンは月に一回十時から十二時です。

♥開設二年目ですが、日本語教室と生活・就職相談はどうですか

日本語教室は、まず皆で顔を合わせ、いろいろな話をしながら最近の状況を確認し、日本語で分からないことや困りごとなど会話の中で聞いています。皆さん日本語で話すのは比較的いいのですが、読み書きが苦手です。

相談は、会の日であればその場で聞きますが、そうでなければ定期的に電話し、必要に応じて訪問します。緊急で相談が来ることも多いです。

また、最近では共同墓地が欲しいという相談がありました。甲府市に山梨県日中平和友好会の共同墓地があるのですが、私たちの住んでいるところからは遠いので少し近いところに欲しいそうです。こうした相談では会で皆から意見や提案を聞いて考えます。

♥皆さんの山梨での毎日は

今日の参加者で就職している方は六名です。大体定年で一軒家に住んでいる方が多く、畑や庭仕事をしています。退職後の再就職は難しいそうです。

来週七月六日は会の宣伝を兼ねて中国家庭料理教室を開催します。地域の方はまだ帰国者をよく知らないのでは、この機会に知ってもらいたいと思います。昨年は南アルプス市民活動センターの助成で四回、自力も含めて計六回開催し、その経験をもとに今年も自力開催します。会場は今年コストコも出店した大型複合施設 funotto（フモット）南アルプスです。日本語教室と生活・就職相談は援護基金から助成してもらっていますが、この活動参加費は会の活動費になります。講師は今日参加の会員六名が立候補しました。

◆おわりに

とてもアットホームな会で会員の皆さんから話をたくさん聞かせていただきました。これからも活力旺盛な皆さんのご活躍を期待しております。



南アルプス市櫛形社会福祉会館



宝木役員 西野会長

令和7年度 团体助成事业

◆前言

基金对以归国遗华日本人及其家人为对象，提供日语教育、生活咨询、以及为了提高福利而实施援助活动的团体等，对其事业提供资金援助。

本期介绍的是：今年提供援助第二年，山梨县南阿尔卑斯市的团体『携手会』（日语学习班、生活・就业咨询事业）。

该团体成立于去年令和六（2024）年三月，援助基金在其成立的第一年就开始提供援助。该团体目前有会员三十四名（其中归国者第一代一名、第二代二十二名、第三代四名、其它七名）。

这一天，我在西野美铃会长和宝木莲江理事的带领下，来到了南阿尔卑斯市杵形社会福祉会馆，参观了他们的聚会活动。

♥今天的参加者有十一名，会员构成第二代较多吧

今天第一代归国者没有来参加。本地区有四名第一代归国者，但只有一名是会员。他们都是年过八旬的老人，有的住养老院，有的因体力不足无法参加。

今天来参加的第二代六名，第

三代一名、其他三名。他们分别来自南阿尔卑斯市、昭和町和甲斐市，今天没有来的人，有的住在韮崎市、有的住在甲府市。

在山梨县没有车很难出行。最远的人要三十分钟的车程。没有车的人和邻居约好，一起搭车来。

今天，曾经住在同一团地的会员，时隔二十年在重相逢。来这里偶遇同团地或同职场的人，能彼此增进感情。

日语沙龙每月举办一次，时间为十点到十二点。

♥开设第二年，日语学习班和生活・就业咨询的情况如何

在日语学习班上，大家首先能见见面、谈论各种话题、确认彼此的近况，从交谈中，可以了解到大家不懂的日语或为难的事情等。大家日语说得很好，但读写方面不太擅长。

咨询方面，如果是活动日，我们会当场听取，除此之外就定期打电话，必要时还会去家访。因事情紧急前来咨询的也有很多。

另外，最近还有共同墓地方面的咨询。在甲府市有山梨县日中平和友好会管理的共同墓地，但离我们住的地方比较远，希望附近能有共同墓地。对于这样的咨询，我们会听取会员们的意见和建议再酌情考虑。

♥住在山梨县各位的日常生活

今天的参加者有六名有工作。会员多数已经退休，住在独栋住宅里，闲时，有的人去家庭菜园、有的人打理庭院、做做园艺等。听说退休后很难再找到工作。

下周七月六日，为了提高本会的知名度，将举办中国家庭料理讲习会。地区住民对归国者知之甚少，希望借此机会提高他们对归国者的认知和了解。去年为止，南阿尔卑斯市市民活动中心资助举办过四回，加上独自举办的两回总计六回。基于这些经验，今年我们也自行举办会场是今年好市多（Costco）也在此开店的大型综合设施『funotto（フモット）南阿尔卑斯』。在日语学习班和生活・就业咨询方面，援助基金为我们提供了资金援助，但本次活动的参加费，将用于本会的活动费。今天从参加活动的会员中，推选出六名候选人出任烹饪讲师。

◆结束语

这是一次非常温馨的聚会，我有幸与会员们进行了愉快的交谈，衷心期待充满活力的各位，今后继续积极参与并有更出色的表现。



日语沙龙的场景



宣传海报

令和7年度 老後支援事業

◆はじめに

当基金では帰国者等に対して安定した介護サービスを提供できるよう、帰国者及びその配偶者の支援に視点を置いたNPO法人等に対し、「居宅介護サービス事業者」又は「地域密着型サービス事業者」等として行っている事業に、運営資金の一部を援助（介護団体支援金）しています。

今回、今年支援四年目になる高知市のデイサービス「せいきょうやまも」(高知医療生活協同組合)を紹介します。平成十八年九月に開業し、支援基金では令和四年から支援を始めたこちらの事業所で、在宅介護事業副部長、生活相談員(介護福祉士)の田副(たぞえ)大輔さんに伺いました。

♥こちらの介護事業所には、帰国者以外にも多いですね

事業所には、この近隣の方も在住の帰国者も来ています。十年前は、認知症に対する偏見もあり、地域の会議によく出かけて認知症の理解を繰り返し説明しました。五、六年前のコロナ前には地域の方や国會議員も呼んで五十名くらいで介護の実情や帰国者支援の拡充を訴えたこともありました。

♥帰国者に対しての周囲の方の理解はどうですか

そこは職員が介入するようにしています。帰国者同士が中国語で会話しているときは、周囲の方に帰国者の歴史を話して、帰国者への理解を得られるように気を配っています。

しかし、最初から、帰国者の話をするのは違うと思っています。そうすると帰国者に対して特別感を持つてしまいます。帰国者以外の皆さんも戦争を経験された世代なので、帰国者の状況は理解されています。

それよりも心配しているのは帰国者だけのデイサービスやコミュニティを作ると、中国語ばかりで話すことが多くなり、日本語を忘れてしまい、更なる孤立が生まれることです。

♥本日は通所者の方からも昼食をご一緒にとお誘いいただき、皆さんのお話を伺いながら、十一皿もある品数豊富なお昼をいただきます

ここでは食事において好きなものを好きなだけ食べられるよう種類豊富にしています。フードロスはよくないですが、家に一人であるときあまり食べない方もいます。ここで一緒に過ごしている間にできるだけたくさん食べてもらいたいと考えています。

♥賞状が飾られていますね

この賞状は『コレスバ大賞』といい高知県社会福祉協議会主催の発表会で高知県内の一環の取り組みとして表彰されました。一般の

介護はおもてなし型といい、利用者はおお客様でお世話される側として扱われますが、それを自立支援型という自分たちでできることは

できるだけ自分たちでしようという取り組みを行い、それが画期的と評価されました。介護保険法第一章「尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう」の実践です。

高齢者がここでは皆と一緒に家事をやることで人に頼られる自信をつけられます。全国から同業者が見学に来ます。八月下旬には「帰国者の尊厳を守る介護」がドキュメンタリーとしてNHKで放映されます。

♥午後は皆で分担して乾いた洗濯物や洗った食器の後片付けでしたね。皆さんの介護とは人生終盤生活の快適さを支えるお手伝いですね

午後の家事だけではありません。毎日午前中は皆で昼食を作ります。朝の送迎車の中で、昼食は何を食べたいか皆で相談し、途中の良心中で野菜を購入したり、農家の利用者さんからいただいた食材で昼食を皆で作ります。

高知の人は鯖寿司が好きで、この間も鯖寿司が食べたいというところになり、炭火で焼いて作りました。利用者さんで元漁師さんがいるので、鰹を一本買い、藁で焼いてたきにして食べることもあります。

♥高知医療生活協同組合は医療と介護で両施設があります。今後

の課題は

医療と介護の両輪でやっています。今後は介護の需要が更に増えていくと思います。今は介護の入所施設がないので、利用者はここが最後の砦です。最後までここに通所希望される方は私がいる間何人か看取りをしました。

ここは南海トラフ地震の津波浸水地域なので、今年九月に、安全な場所に移転します。次の所は高齢者住宅もあり、安心です。利用者も災害時の不安があつたようです。また、看護は長い歴史で地位を確立していますが、介護は制度が始まって二十年程度(平成十二年介護保険法制定)です。同じように皆が誇りを持てる良い仕事なので介護現場の給与基準が上がらないと、制度を支える担い手がどんどん足りなくなるという危機感があります。利用者減少でなく、人材不足で介護施設がなくなります。

◆おわりに

この日利用者さんから、思いがけず支援基金にとご寄付を頂戴しました。

にぎやかでアットホームな一日を過ごさせていただきました。ありがとうございます。皆さんのご活躍を期待しております。

現在の利用者は三十五名(そのうち一七七名、配偶者二名)、職員十名で、毎日六名が勤務しているとのこと。

令和7年度 晚年支援事业

◆前言

本基金为了能够为归国者等提供稳定的护理服务，并对以归国者及其配偶为支援对象的NPO法人等，作为『居家介护服务事业者』或『地域紧密结合型服务事业者』已经开启运营业务的法人，提供部分资金援助（介护团体支援金）。

本期，向各位介绍的是：本基金提供援助的第四年，高知市的一家日间服务事业所『生协山桃』（高知医疗生活协同组合）。于平成十八（2006）年九月开业，援助基金从令和四（2022）年开始提供援助。在这家事业所，居家介护事业副部长兼生活相談员（介护福祉士）——田副大辅先生接受了采访。

♥在该介护事业所，归国者以外的人有很多啊

事业所有附近的人，也有本地区的归国者。

十年前，人们对痴呆症存在偏见，为此我曾多次前往各地区参加会议，反复进行说明，求得人们对痴呆症的理解。

五、六年前，新冠病毒疫情未发生之前，我们曾邀请当地的住民和议员大约五十人前来，向他们介绍护理的实际情况并呼吁加强对归国者的支援。

♥周围的对归国者的理解如何

这方面职员会尽量加以留意，

当归国者之间用中文交谈时，我们会有意识地周围的人介绍归国者的历史，以便让他们更好地了解归国者。

如果从一开始就谈及归国者，我认为是不合适的，那样反而会对归国者产生被特殊对待的感觉。归国者以外的人也是经历过战争的世代，对归国者的状况都很理解。

更令我担心的反而是：如果单独面向归国者提供日间服务或专用空间，那么他们只说中文，反而会忘记日语，这样会导致他们更加孤立。

♥今天，利用者邀请我共进午餐，我与大家边吃边聊，食物种类丰富，共有十一盘

在这里为了让利用者不但能吃得饱，还能吃得好，我们准备了种类丰富的伙食，食品浪费固然不好，但是，有的人在家里一个人没有食欲，我们希望能来这里跟大家在一起的时候，能尽量多吃一点。

♥墙上的奖状是

是『コレスパ大賞』（超赞大奖），在高知县社会福祉协议会举办的颁奖会上，我们以最佳业绩，受到了表彰。一般的护理被称为『款待型』，即把利用者当作客人给予照顾，我们推行的名为『自立支援型』护理，即让利用者在力所能及的范围内，自己能做事自己做，我们的护理方式被认为是一项新尝试，受到高度的好评。这与『介护保险法』第一章『维护受助者尊严，使其能够根据自己的能力过上自理的日常生活』的规定相符。

老龄者在这里通过跟大家一起

做家务，能够获得被需要的自信。全国各地的同行业的人员也前来参观。NHK电视台将在八月下旬，播放题为『维护归国者尊严的介护』的纪录片。

♥下午，大家一齐收拾晒干的洗涤物、整理餐具。你们所做的护理，就是帮助步入夕阳红阶段的老年人生活得更加舒适

不仅仅是下午做家务。每天上午，大家还一起做午餐。早上在迎送车里，大家一起商量午餐想吃什么，然后在沿途的良心市场（农产品直销店）购买蔬菜，或者使用农家的利用者提供的食材一起做午餐。

高知县人喜欢吃鲭鱼寿司，前一段时间，大家说也想吃，我们就做了用炭火炙烤的鲭鱼寿司。一位以前是渔夫的利用者，买了一条鲭鱼，用秸秆炙烤，做『炙烤鲭鱼刺身』给大家吃。

♥高知医疗生活协同组合拥有医疗和介护两大设施。今后的课题是

我们同时提供医疗和护理两项服务。我认为今后护理方面的需求将不断增加。目前还没有护理方面的入住设施。这里是利用者最后停靠的港湾。希望最后在这里接受护理服务的人，这期间，我已经陪伴过好几位，在这里度过了人生的最后时光。

这里地处南海槽地震海啸水淹地区，因此，今年九月，我们将搬迁到安全的地方。下一个地方有老龄者住宅，我们比较放心。利用者对发生灾害时，还有些担心。

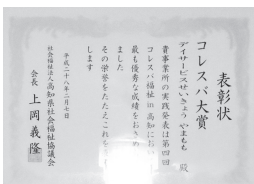
此外，看护领域拥有悠久的历史，

并建立了一套完整的体系，而介护制度开始实施不过二十年左右（平成十二（2000）年颁布《介护保险法》）。护理工作同样是一份令人自豪的工作，如果不提高介护领域的薪酬标准，就会陷入照顾高龄者的护理人才，越来越短缺的危机。介护设施的消减，不是因为利用者减少，而是护理人才的不足。

◆结束语

这一天，我们惊喜地收到了一位利用者为援助基金捐赠的善款。非常感谢在那里度过了热闹而温馨的一天。期待各位今后取得更大的成绩。

目前利用者有三十五名（包括七名一代归国者和两名配偶）、职员十名，每天有六名出勤。



令和6年度 事業報告・決算の概要

令和6年度決算事業費

(経常費用) 219, 260千円

寄付募集状況

7, 490, 500円のご寄付が寄せられました。

皆様のご支援に感謝申し上げます。

公1事業(中国在住者関連事業)

事業費決算 33, 414千円

1 中国養父母への扶養費の送金

前年度に永住帰国した孤児の養父母に対し、国と援護基金で折半して扶養費を送金していますが、令和六年度は送金対象となる養父母がいま

2 訪中説明会(座談会)

未だ中国に残留している中国残留邦人宅を訪問し説明会等を実施していますが、連絡が取れなくなつた方が増え現地の状況把握が難しいこと、居住地が広範囲に点在しており効果的に訪問することが難しい状況にあること、渡航費等諸経費が大幅に上昇し予算措置が難しくなつたこと等から、令和六年度も訪中座談会の実施は見送り、残留邦人の状況把握に努めました。

3 中国関係機関訪日協議

中国残留邦人問題の円滑な進展を図るため、毎年中国の関係機関関係者を日本に招致し意見交換等を行っています。集団一時帰国に合わせ九月三日から九月九日の間中央政府関係者二人を招致し意見交換等を実施し

ました。

4 中国残留邦人等の集団一時帰国

受入事業(国の委託事業)

未だ中国に残留している中国残留邦人の集団一時帰国受入れを行っています。九月三日と九月十四日の間、四世帯八人を、また、個別一時帰国として九月二十五日と十月十六日の間一世帯一人を受け入れました。

公2事業(帰国者関連事業)

事業費決算 180, 311千円

1 中国に残る養父母の

お見舞い訪中援助
様々な理由で来日できない養父母を孤児が訪中して見舞うことを援助する事業ですが、令和六年度は申請がありませんでした。

2 中国帰国者と

その家族への就学援助

①大学、専修学校就学援助
令和六年度は対象となる申請者が

いませんでした。
②支援・交流センター受講者援助
全国七か所の支援・交流センター

の受講生のうち国の支援対象とならない二世三世等516人分の教材費

として、1, 259千円を援助しま

した。

③介護関連資格取得援助

中国語が話せる介護従事者を増やすため、介護関連資格の取得を目指す二世三世等に受講費等の一部を援助しています。48人に対し計2, 2

00千円の援助を行いました。

3 団体活動助成事業

日本語教室や生活相談等の援助活動を行っている14団体に対して、計2, 750千円を助成しました。

4 老後支援事業

①介護事業基盤整備援助事業
中国帰国者を主な対象とする介護施設を運営しているNPO法人等13

法人に対して計2, 600千円の介護団体支援金を交付しました。

②要介護支援モデル研究事業

介護団体支援金を利用している施設等から帰国者の状況報告を受け、必要とされる支援の把握に役立てま

した。また、介護関連資格取得援助を利用し介護福祉士の資格を取得した残留婦人三世の奮闘等を機関紙で

紹介しました。

③訪問介護事業

当基金が運営していた訪問介護事業所「寿星」は平成三十年度より帰

国者二世三世が運営するNPO法人に運営を任せ、当基金直営での訪問

介護事業は、中止しています。

5 日本国籍取得支援事業

身元が判明している中国残留邦人等が、戸籍の訂正等の申請を行う場合、その手続きに必要な弁護士費用

等を援助していますが、令和六年度は該当者がいませんでした。

6 中国帰国者支援・交流センター

運営事業(国の委託事業)

首都圏中国帰国者支援・交流センターの運営とその宿泊施設の管理を

行いました。(定着促進事業、日本語学習支援事業、生活相談事業、地域

支援事業、交流事業、普及啓発事業、情報提供事業、地域生活支援推進事業、介護支援事業及び自立研修事業)

令和五年十一月に入所した永住帰国者一人が五月に退所して以降新たな永住帰国者の入所はありませんで

した。普及啓発事業として実施している「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」講話会

は全国各地で64回開催し参加者も2, 300人近くとなりました。

7 就職援助事業(国の委託事業)

首都圏中国帰国者支援・交流センターに職業相談員を配置し、帰国者二世等に対し職業指導や職業相談等

を行った他、就職に役立つ知識や情報等をまとめた「就職ガイダンスブック」(日本語・中国語併記)を改訂し、各都道府県労働局等へ配布し

ました。

8 教材の開発・出版事業

様々な年齢層や学習レベルの帰国者等のニーズに応えるために、中国・樺太帰国者向けに様々な日本語教材等を開発販売しています。令和六年度は新たに二種類の教材を発行し、

1, 221冊の教材を販売しました。
9 普及啓発及び広報事業
中国帰国者が日本社会で温かく迎え入れてもらうためには、中国残留邦人のことを知っていただくことが何より重要であるため、あらゆる機会を捉えて、普及啓発事業を行って

います。
機関紙「援護基金」87号を発行した他、ホームページを適時更新し情報発信に努めました。

寄 附 者 芳 名 録

ありがとうございました

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの分)

(敬称は省略させていただきます)

[企業・団体の部]

(単位:円)

株式会社アイメック	100,000	株式会社カタログハウス	50,000
佐倉平和のつどい 岩崎 茂	10,000	株式会社ツジセル 代表取締役 辻 一朗	10,000

[個人の部]

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。



公益財団法人中国残留孤児援護基金 評議員及び役員名簿

評 議 員

加川 博明	元東京都福祉保健局 元広尾看護専門学校 校長
河合 弘之	さくら共同法律事務所 弁護士
高尾 佳巳	元在中華人民共和国日本国大使館 一等書記官
高根 和子	元厚生労働省社会・援護局援護企画課 中国孤児等対策室長
中川 桂子	元神奈川県自立研修センター 就労相談員
永嶋 昌樹	日本社会事業大学社会福祉学部准教授
松本 省藏	元環境省大臣官房長

(令和7年6月24日現在)

役 員

理事長	炭谷 茂	社会福祉法人 恩賜財団 済生会 理事長
常務理事	新津 浩平	元厚生労働省社会・援護局援護企画課 中国残留邦人等支援室長
理事	芦田 真吾	元東京都福祉保健局 生活福祉部 部長
同	小林 悦夫	元中国残留孤児援護基金 常務理事
監事	蒲生 七郎	元東京都福祉局 参事
同	森居 秀彰	森居総合法律事務所 弁護士

(常勤役員は、常務理事のみ)
(令和7年6月25日現在)

介護関連資格取得奮闘記
介護支援専門員実務研修受講試験合格
真尾涼子さん(三世)

◆はじめに

当基金では、「介護関連資格取得援助事業」において、中国・樺太帰国者二世・三世・四世並びにその配偶者が日本で自立するために介護関連資格取得講座の受講料の一部(国家試験受験料の全額)を援助しています。平成十五年度から令和六年度までの二十二年間で累計千二百二十七名に支援を行ってきました。令和六年度も四十八名に支援しています。

この事業では、中国語・ロシア語で介護を行える人材を育成し、高齢となった帰国者が言葉の問題で十分な介護サービスを利用できない現状を改善することも目指しています。

そして、帰国者及びその配偶者等を受け入れる介護事業所からは、今後も増加する帰国者の特殊な状況を理解し、その気持ちにより添える介護従事者への期待が寄せられています。

今回は当基金の支援を受け、令和六年に実務者研修講座を終え、介護福祉士の国家試験と介護支援専門員実務研修受講試験に見事合格された大阪府富田林市在住の三世、真尾涼子さんの奮闘記を紹介します。

♥介護資格を取得したきっかけは

私の家族のデイサービス開業で、生活相談員が必要になり、母の勧めで介護資格を取得して、介護の仕事をするようになりました。

そこに至るには両親が介護施設で働いているときに会った日本語学習ボランティア奥野夫妻の存在があります。

両親は中国では高校教師でしたが、祖母の日本帰国で八歳の私の将来を考え一緒に帰国しました。

奥野夫妻は高学歴の両親が日本で苦労しているのを親身になって心配し、自営業で仕事ができるよう介護事業所の設立をアドバイスしてくれました。

令和元年、私が国立大学付属病院で看護師3年目の年、母から訪問介護事業所設立を相談されました。

当時は未知の世界に飛び込む両親に驚き戸惑いましたが、両親は奥野夫妻の後押しもあり、設立に前向きでした。

そのさなか奥野夫妻の奥さんの認知症が進み、介護が必要となりました。

お二人への恩返しへの気持ちもあり、両親は事業所を立ち上げました。この縁がなければ事業所もなく、仕事をしながら恩人を手助けすることもありませんでした。両親が勤務していた事業所から、仕事の依頼が来るようになりました。

♥他に介護の仕事をしているご家族は

家族で介護職に就いたのは両親と母の妹の叔母二人、私たち夫婦です。

訪問介護で利用者さんの信頼が得られるようになると、デイサービスのニーズも寄せられ、奥野夫妻の後押しがあり、今度はデイサービス設立へと進みました。

行政手続きや、事務所の立地の相談では、奥野夫妻が法律に明るく、立ち会って手続きのサポートをしていただきましたが、私も令和二年4年目で退職し、後半は夫と叔母とともに設立手続きに奔走するようになりました。

訪問介護設立では行政書士に委託しましたが、デイサービスでは様子もわかってきて、資金もそれほどかかれなかったので自力でやりました。行政の担当者も親身に対応してくださいました。

私がデイサービスに欠かせない常勤看護師であることも事業には幸いでした。今総スタッフ十五名前後です。

♥「介護支援専門員実務研修受講試験」に合格しましたね

令和三年、二十八歳、デイサービスが始まった当時は結婚し、子供ができる前に試験と研修を終えるつもりが、思ったよりも忙しく、デイサービスと訪問に追われ、勉強がなかなかできませんでした。

慣れてきた2年目の令和五年、三十歳で子供ができ、出産後ようやく少し勉強に余裕ができました。

試験は、後半の医療分野は得意ですが、前半の介護保険制度は法律が難しく1回目は歯が立たず、2回目は2点足りず、3回目のチャレンジで定評のある教科書に変えてみると慣れてきたせいか理解度も上がり、合格できました。これから研修を経てケアマネージャーになります。

試験では意外と高齢の方が多く、長く続けることができる仕事なので、介護のやりすぎにならないよう、どうしても必要な介護をうまく決められた範囲内で提供できるかを考えるためにケアマネージャーを目指しました。

◆おわりに

真尾さんのご家族も資格取得では当基金の助成を利用されました。デイサービス「百合の家」の名称は社長であるお母様の名前からだそうです。今では祖父母のお二人も通所されています。



通过努力取得介护相关资格
介护支援专门员实务研修讲习考试合格
真尾凉子女士（三代）

◆前言

本基金实施的「介护相关资格取得援助事业」，是以中国和库页岛的归国者第二代、第三代、第四代及其配偶为对象，为了他们能够在日本自立，参加介护相关资格取得讲座的讲习费的一部分（国家考试费用全额）给予援助。从平成十五（2003）年度至令和六（2024）年度共二十二年期间，已累计为一千一百二十七人提供了援助。令和六（2024）年度援助了四十八人。

此项事业旨在培养能够用汉语、

俄语提供护理服务的人才，改善老龄归国者因语言问题，无法充分利用护理服务的现状。

因而，对于接收归国者及其配

偶等的介护事业来说，针对今后不断增加的归国者的特殊状况，对能够理解并能感同身受的护理人员，寄予很高的期望。

♥取得护理资格的动机

我的家人开办了日间服务设施，需要生活相談员，由于母亲的建议，

我考取护理资格并开始从事护理工作。

能有今天应该归功于我父母在护理设施工作时，认识的日语学习支援志愿者奥野夫妇。

我父母在中国曾是高中教师，当祖母回日本时，出于对我的将来考虑，父母带着八岁的我一起回到了日本。

奥野夫妇看到曾受过高等教育

的父母，在日本生活之不易，设身

处地为我父母着想，建议开办一家私营性质的介护事业所。

令和元（2019）年，我在

国立大学医院担任护士的第三年，母亲向我提出了设立访问介护事业所的想法。

当时，我对父母贸然涉足未知

领域感到惊讶和不解，但是由于奥野夫妇的鼓励和帮助，父母对开设事业所的建议积极响应。

在筹划期间，奥野夫人患上了

痴呆症，需要护理。

为了报答奥野夫妇的恩情，父

母开办了访问介护事业所。如果没有这个缘份，就不会有事业所，就不能以工作的形式来回报恩人。

我们也开始承接来自我父母以

前工作过的事业所的工作请求。

♥其他从事护理工作的家人

从事护理工作的家人有我父母、还有母亲的两个妹妹及我们夫妻。

通过访问介护我们赢得了利用

者的信任，也听到了对日间服务的需求，在奥野夫妇的鼓励和帮助下，

我们开始着手筹划日间服务。在办理行政手续、事务所所选

址咨询事宜方面，奥野夫妇非常了解法律，陪同并在申办手续时不遗余力地为我们提供帮助。我在工作的第四年的令和二（2020）年离职，后期，与丈夫和姨妈一起为办理开设手续而多方奔走。

访问介护的申办手续是委托行政书士代办的，申办日间服务时，因为对日间服务已经有所了解，投入的资金也不多，是我们自己申办的。

行政人员也热情友好地接待了我们。

对于日间服务必不可少的全职护士，由我来担任对事业很有帮助。目前共有十五名左右的员工。

♥介护支援专门员实务研修讲习考试合格

令和三（2021）年，我二

十八岁结婚，那时日间服务刚起步，本打算在孩子出生前完成考试和培训，但工作比预想的要忙，每天忙于日间服务和访问介护，没有时间学习。令和五（2023）年，工

作逐渐适应的第二年，我三十岁有了孩子，孩子出生后，终于能抽出时间学习了。

考试方面，后半部分的医学领域比较擅长，但是前半部分的介护保险制度方面的法律问题比较难，由于理解不足第一次考试失败。第二次也差两分不及格。第三次挑战，我更换了评价不错的教科书，也许是已经适应的缘故，理解能力也得到提高，考试合格。从现在开始经过培训，正式成为介护支援专门员。

参加考试的老年人之多出乎我的意料。这是一份可以长久从事的工作，我立志成为介护支援专门员，

以期在规定的范围内，如何才能合理地提供必要的护理，而避免过度地护理。

◆结束语

真尾女士的家人，在取得护理资格时，也得到过援助基金提供的援助。

日间服务的名称“百合之家”是以社长即真尾女士母亲的名字命名的。现在她的祖父及祖母也正在此设施接受日间服务。



令和7年度教材開発・出版事業の案内

中国残留邦人等とその家族のための
日本語教材等の開発及び出版事業

帰国者等の様々な年齢層や学習レベルのニーズに応えるために、中国・
韓太帰国者及びその家族のために「日
本語・日本事情教育」を内容とした
各種テキストや練習帳などを開発し、
語学や時事、生活習慣などの習得に
役立てていただいております。

中でも医療・介護の用語・表現集は、
生活の場ですぐにお役立ていただける
教材として好評をいただいております。

今号では医療用語・表現集（中国
語とロシア語）のご案内を22頁でさ
せていただいております。中国語版
は8月に第6版の刊行となり、内容
の一部追加とともに長らく据え置き
にしていた価格の改定となりました。
何卒宜しくお願い申し上げます。

また、各世代に帰国者を理解いた
だくために絵本や写真集などもござ
います。

詳細につきましては、ホームペー
ジで出版物の紹介をご覧くださいま
す。
<https://www.engokikin.or.jp/>

援護基金出版教材一覧表

注文 番号	書 名	定価(税込) 円	注文 番号	書 名	定価(税込) 円
1	読解の基礎 上	1,320	26	始めてみよう・話してみようⅢ (CD2 枚付)・解答別冊	1,870
2	読解の基礎 下	1,320	27	始めてみよう・話してみようⅣ (CD2 枚付)・解答別冊	1,870
3	漢字を覚えよう (上)	2,200	28	のんびり学ぼうⅡ・(音読編付・CD1 枚付) (No76 合冊版有り)	1,980
4	漢字を覚えよう (下)	2,200	29	新・日本の生活とことばー1 新版消費生活 (上) (CD2 枚付)	1,870
5	漢字ゆっくり A (CD1 枚付)	2,090	30	新・日本の生活とことばー1 新版消費生活 (下) (CD2 枚付)	1,870
6	漢字ゆっくり B (CD1 枚付)	2,090	31	新・日本の生活とことばー2 医療 (上) (CD1 枚付)	1,870
7	身のまわりの漢字	880	32	新・日本の生活とことばー2 医療 (下) (CD1 枚付)	1,870
8	ひらがな練習帳セット (3 冊セット)	1,210	33	新・日本の生活とことばー3 交通 (上) (CD2 枚付)	1,870
9	ひらがな練習帳 1・読んでみよう (No51 大文字版有り)	550	34	新・日本の生活とことばー3 交通 (下) (CD3 枚付)	1,870
10	ひらがな練習帳 2・書いてみよう	550	35	新・日本の生活とことばー4 学校 (上) (CD2 枚付)	1,870
11	ひらがな練習帳 3・すらすら読んでみよう	550	36	新・日本の生活とことばー4 学校 (下) (CD2 枚付)	1,870
12	片仮名練習帳 1・読んでみよう (No52 大文字版有り)	550	37	新・日本の生活とことばー5 介護 (CD2 枚付)	1,870
13	カタカナ練習帳 2・書いてみよう	550	38	話してみよう近所の人と ① (CD1 枚付)	1,430
14	カタカナ練習帳 3・すらすら読んでみよう	550	39	話してみよう近所の人と ② (CD1 枚付)	1,430
15	文字の練習 / 聞き書き カタカナ	880	40	中国語を母語とする人のための医療用語・表現集	3,300
16	ことばと表現Ⅰ (CD1 枚付)	1,430	41	求職会話 (CD2 枚付)	2,200
17	ことばと表現Ⅱ (CD1 枚付)	1,430	42	こつこつ日本語運転免許	2,640
18	ことばと表現Ⅲ (CD1 枚付)	1,430	43	写真集 私の祖国	2,750
19	ことばと表現Ⅳ (CD1 枚付)	1,430	44	金のひしゃく 北斗七星になった孤児たち (絵本)	1,760
20	自己表現日本語 (1)「日本語学習」A (CD1 枚付)	1,870	45	孤児に寄り添い 25 年	2,200
21	自己表現日本語 (1)「日本語学習」B (CD1 枚付)	1,870	46	中国語を母語とする人のための介護用語・表現集 上巻	2,640
22	自己表現日本語 (2)「日本の生活」A (CD1 枚付)	1,870	47	中国語を母語とする人のための介護用語・表現集 下巻	3,300
23	目からウロコのピンイン講座 (CD2 枚付)	1,760	48	「介護職員初任者研修」を受ける準備をしよう	2,090
24	始めてみよう・話してみようⅠ (CD2 枚付)・解答別冊	1,870	49	単語から学ぶ片仮名・読んでみよう・書いてみよう (CD1 枚付)	1,320
25	始めてみよう・話してみようⅡ (CD2 枚付)・解答別冊	1,870	50	単語から学ぶ片仮名・読んでみよう・書いてみよう (CD1 枚付)	1,320

注文 番号	書 名	定価(税込) 円	注文 番号	書 名	定価(税込) 円
51	ひらがな練習帳 1・読んでみよう (大文字版)	550	85	ことばと表現 III (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430
52	片仮名練習帳 1・読んでみよう (大文字版)	550	86	ことばと表現 IV (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430
53	ひらがな練習帳 1 ワークブック	770	87	漢字をおぼえよう (1) (ロシア語)	2,200
54	カタカナ練習帳 1 ワークブック	770	88	漢字をおぼえよう (2) (ロシア語)	2,200
55	文字の練習 / 聞き書き ひらがな	880	89	漢字をおぼえよう (3) (ロシア語)	2,200
56	面接のやりとり (CD1 枚付)	1,100	90	漢字をおぼえよう (4) (ロシア語)	2,200
57	かけ足数学 上	1,870	91	漢字をおぼえよう (5) (ロシア語)	2,200
58	かけ足数学 下	1,870	92	漢字をおぼえよう (6) (ロシア語)	2,200
59	文型数学	2,200	93	始めてみよう・話してみよう I (CD2 枚付)・解答別冊 (ロシア語)	1,870
60	すいすい引いてみよう	1,320	94	始めてみよう・話してみよう II (CD2 枚付)・解答別冊 (ロシア語)	1,870
61	あたらしい ぶんけいさんすう	1,650	95	始めてみよう・話してみよう III (CD2 枚付)・解答別冊 (ロシア語)	1,870
62	中国の漢字と日本の漢字	1,540	96	始めてみよう・話してみよう IV (CD2 枚付)・解答別冊 (ロシア語)	1,870
63	交流 (合本)	1,100	97	新・日本の生活とことばー1 消費生活 (上) (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
64	めざせレベル 4! おしゃべりトレーニング 1 (CD2 枚付)	880	98	新・日本の生活とことばー1 消費生活 (下) (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
65	めざせレベル 4! おしゃべりトレーニング 2 (CD2 枚付)	880	99	新・日本の生活とことばー2 医療 (上) (CD1 枚付) (ロシア語)	1,870
66	めざせレベル 4! おしゃべりトレーニング 3 (CD2 枚付)	880	100	新・日本の生活とことばー2 医療 (下) (CD1 枚付) (ロシア語)	1,870
67	めざせレベル 4! おしゃべりトレーニング 4 (CD2 枚付)	880	101	新・日本の生活とことばー3 交通 (上) (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
68	めざせレベル 4! おしゃべりトレーニング 5 (CD2 枚付)	880	102	新・日本の生活とことばー3 交通 (下) (CD3 枚付) (ロシア語)	1,870
69	中国帰国者のためのパソコン専科 新 Excel・電子メール入門編 Windows 7&8・Excel2010 対応版	1,760	103	新・日本の生活とことばー4 学校 (上) (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
			104	新・日本の生活とことばー4 学校 (下) (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
70	中国帰国者のためのパソコン入門講座 パソコンに触ってみよう Windows 7 / Word2010(2007) 対応版	1,760	105	ロシア語を母語とする人のための医療用語・表現集 (ロシア語)	2,640
			106	ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集 (ロシア語)	2,640
71	中国帰国者のためのパソコン基礎講座 パソコンに親しもう	1,760	107	新・日本の生活とことばー5 介護 (CD2 枚付) (ロシア語)	1,870
72	中国帰国者のための続・パソコン基礎講座 ワードに慣れよう	1,760	108	身のまわりの漢字 (ロシア語)	880
73	中国帰国者のための趣味のパソコン講座 パソコンを楽しもう!	1,760	109	交流 (合本) (ロシア語)	1,100
74	挑戦! 日本語能力試験 N2-中国帰国者のための N2 対策 - 上 (CD1 枚)	2,200	110	ひらがな練習帳 1 (ロシア語)	550
75	挑戦! 日本語能力試験 N2-中国帰国者のための N2 対策 - 下 (CD2 枚)	3,300	111	ひらがな練習帳 1 ワークブック (ロシア語)	770
76	新・のんびり学ぼう (CD2 枚付)	2,750	112	カタカナ練習帳 1 (ロシア語)	550
77	通じる日本語の発音 (CD2 枚付)	1,320	113	カタカナ練習帳 1 ワークブック (ロシア語)	770
78	通じる日本語の文法 (CD2 枚付)	1,760	114	ひらがな練習帳 3 (ロシア語)	550
79	求職会話 I (CD1 枚付) (ロシア語)	1,100	115	カタカナ練習帳 3 (ロシア語)	550
80	求職会話 II (CD1 枚付) (ロシア語)	1,100	116	文字の練習 / 聞書 ひらがな (ロシア語)	880
81	話してみよう 近所の人と ① (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430	117	文字の練習 / 聞書 カタカナ (ロシア語)	880
82	話してみよう 近所の人と ② (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430	118	すいすい引いてみよう (ロシア語)	1,320
83	ことばと表現 I (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430	119	あたらしい ぶんけいさんすう (ロシア語)	1,650
84	ことばと表現 II (CD1 枚付) (ロシア語)	1,430	※書籍 5, 500 円以上の購入で送料無料となります。		

医療用語・表現集のご案内

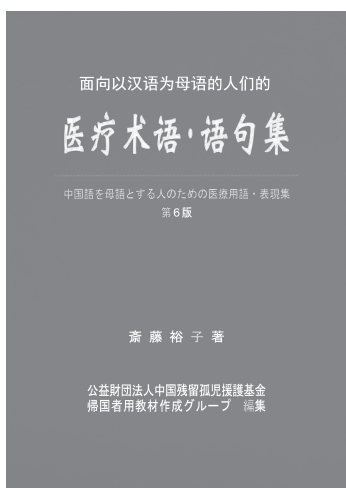
公益財団法人中国残留孤児援護基金では、中国・樺太等からの帰国者の皆さんのお役にたてるよう今までにも様々な教材等を出版してまいりました。

特にご好評を得ている「中国語を母語とする人のための医療用語・表現集」をご案内させていただきます。こちらは、8月に第6版刊行で内容が一部追加され、価格改定となりました。

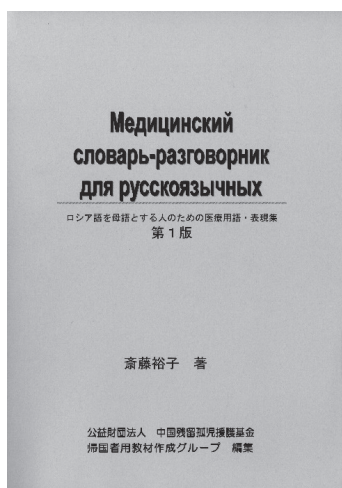
また、「ロシア語を母語とする人のための医療用語・表現集」もございますので、併せてご案内します。

帰国者の皆様が高齢化するのに伴い、医療機関を利用する機会が増加しているなか、帰国者の皆様、支援者の皆様、自治体で帰国者を支援する皆様方に、ぜひご活用いただきたいと思います。

また、介護用語・表現集につきましても、同様にご案内しております。



6版
(税込 3,300円)
B5 サイズ 454 頁



初版
(税込 2,640円)
A4 サイズ 402 頁

《中国語を母語とする人のための医療用語・表現集》6版 日中対訳式

医療サービスを受ける際に出てくる用語や表現をまとめた資料集。日中対訳式。11種類の問診票、3種類の索引付き。内容が一部追加され、問答も増えて充実したので、これまでも増して役立つ内容となっています。

《ロシア語を母語とする人のための医療用語・表現集》初版 日露対訳式

中国語版（3版）の内容をもとに、刊行しております。こちらもぜひご活用ください。

ご購入を希望される方は、公益財団法人中国残留孤児援護基金までお問い合わせください。

ご購入額が5,500円（税込）以上の場合送料は無料となります。

この他にも様々な教材等を販売しております。当基金のホームページでご案内しておりますので、ご覧ください。

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目6番8号

Imas Works Bakurocho 4階

TEL : 03-6667-0552 FAX : 03-6667-0553

Mail : kyouzai@engokikin.or.jp

HP : <https://www.engokikin.or.jp/>



公益財団法人
中国残留孤児援護基金

東海・北陸支援・交流センター便り

第1号

編集：東海・北陸中国帰国者支援・交流センター
〒461-0014 愛知県名古屋市中区槇木町1丁目-19番地 日本棋院中部会館6階
TEL 052-954-4070 FAX 052-954-4071
E-mail: toukai-hokuriku@sien-center.or.jp
URL: https://toukai-hokuriku.sien-center.or.jp/

―愛知県厚生事業団から―

中国残留孤児援護基金へ―

東海・北陸中国帰国者支援・交流センターの運営を引き継ぎました

令和7年4月1日より東海・北陸中国帰国者支援・交流センターの運営を愛知県厚生事業団から公益財団法人中国残留孤児援護基金が引き継ぎました。

これに伴い援護基金の新津常務理事が東海・北陸中国帰国者支援・交流センターの所長を兼務することになりました。



〈新体制の所長と職員〉

新体制になってからの事業をいくつか紹介します。

健康ボウリング

名古屋市内の本山ボウルで、「健康ボウリング」を行いました。参加者は16名でした。

89歳の最年長の参加者が一番高い得点を出し、皆さんびっくりしていました。皆さんで楽しい時間を過ごし、最後に素敵な記念写真を撮ることもできました。



〈本山ボウルでの記念撮影〉

岐阜交流会

岐阜市民会館で、第1回「岐阜帰国者交流会」を開催し、帰国者13名が参加しました。

初めに、新所長の挨拶とスタッフの紹介を行い、その後、カラオケ大会でした。



〈岐阜交流会での記念撮影〉

新津所長が「北国の春」を中国語で歌って会場が盛り上がった後、参加者が日本語の歌と中国語の歌の「美しい草原は私のふるさと」を合唱しながら、歌に合わせてダンスを披露した方もいらっしゃいました。

後半は、「カーネーション」を折り紙で作りました。92歳の最年長の参加者が指先を使って細かく折り畳む速さに、皆さんびっくりしていました。参加者全員が、素晴らしい時間を過ごしました。最後に、自分で作った作品を持って記念撮影を行いました。

今後も東海・北陸地域の帰国者の支えとなるセンター運営を目指したいと思えます。

戦後世代の語り部派遣事業

首都圏センターでは「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部派遣事業を令和2年度から始めましたが、毎年少しずつ増えて、令和6年度には講話会の件数が六十四件となりました。講話を聞いてくださった人はこの5年間で六千五百人を超えました。すでに二十七都道府県で講話を行っています。

この「戦後世代の語り部」については以前33号で紹介しました。戦後生まれの三十代から七十代の人たちが、3年間の研修の中で、中国・樺太残留邦人一世の方たちから直接話を聞きとります。そして、戦中戦後に残留邦人がどのような体験をしたか、どんな苦労があったかを講話としてまとめて、聴衆に向けて語るという活動をしています。語り部の中には帰国者二世三世もいますし、それまで帰国者とは縁の無かった方もいます。

語り部が語る残留邦人の体験は一人ずつ全く異なっており、中国残留と樺太残留、残留孤児と残留婦人、判明と未判明孤児等の違いはもちろん、中国での暮らしも帰国に至る経緯も帰国してからの苦労も本当に様々です。聴衆のアンケートにも以下のような声が寄せられています。

・日本に来てからもつらい経験が多かったと思いますが、日本に来たことが良かったとおっしゃっていたのが印象的でした。語り部活動は客観的にやらなければなら

ないのだから皆さんの葛藤があると思いますが、活動の意義は大きいと感じました。(高校生)

・語り部事業があること、派遣も可能であること、初めて知りました。こうした「実話」「体験」を共有することは大切ですね。風化させず、平和を考えることは永遠に必要なだと改めて痛感しました。(70代)

・体験の当事者にとつて綴ること、語ることとは自分や自分の人生に向き合うことの大変なしんどさが強いられるものだと思います。でもそれをくぐることで、自分の人生を受け入れる、客観視できることを考えると、聞き取る事、そして語り部を通じて語ることの意味は重要だと思います。(50代教員)

・中国残留邦人について、名前すら知らなかったのですが、今回の内容を聞いて日本人の方などにそのような大変な経験をしていた人がいると、はじめて知りました。そしてDさんの言っていたことを聞いて、改めて「戦争は何もいいことを生まないな」と思いました。(小学6年生)

令和6年度には小学生・中学生・高校生を対象に講話をする機会がかなり増えたため、子どもたちにも理解できるように講話の内容をシンプルにしたり、表現を分かりやすく変えたり、等の工夫が必要でした。その過程で、歴史的背景を知ってもらうための展示パネルを作成し、同じ内容のリーフレットも作成しました。また、講話の前に視聴してもらったために、中国・樺太残留邦人が生まれた背景を15〜20分程度の動画にまとめたものも制作しました。今は

中学校の教科書も「残留孤児」等の記述がほとんどないものが主流となっており、講話に訪れた学校でも「初めて知った」という感想が多く見られます。

これらのパネルや映像は貸し出し可能ですので、関心を持ってくださった方は是非首都圏センターのホームページから申し込みください。



<高校での語り部講話会の様子>

この語り部講話を聞いてみたいと思われた方は、是非首都圏センターに一度ご連絡ください。個人のお宅への派遣などはお受けできませんが、何人かでグループを作ってお申し込みいただければ全国どこへでも伺います。



中国語の通訳を入れて実施した講話会も数件あります。わざわざ講話会を開くのはちょっとハードルが高いと思われた方は、首都圏センター主催のオンライン講話会も年に二回ありますので、そちらにご参加ください。

介護支援事業の現場より ～居宅訪問も可能に～

現在、介護支援事業のひとつとして行っている「語りかけボランティア訪問事業」について、これまでの経過報告をさせていただきます。

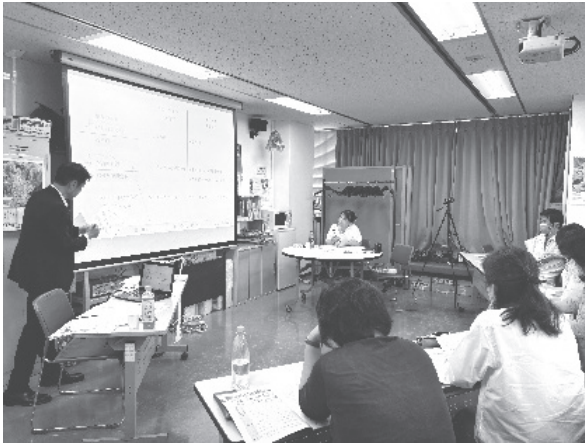


この事業は、デイサービスや特別養護老人ホームなどのような介護施設を利用して帰国者の方々のところに、中国語が話せるボランティアが訪問して、おしゃべり相手になるというものです。必要に応じて、介護職員と帰国者の間に入って通訳をしたり、施設での活動について説明したりすることもあります。

首都圏センターの担当地区は関東および甲信越の1都9県ですが、これまで全ての地区でボランティアさんが訪問することができています。そして、多くの利用者（帰国者）の方々から、喜びの声をいただいています。しかしながら、帰国者の一部には介護施設を利用するのをためらう方もいます。そこで、令和6年度、自宅への訪問を試行し、令和7年度から帰国者のご自宅に訪問できるようにしました。訪問介護や訪問看護を利用している方で、利用時間に中国語でおしゃべりしたい方には積極的にご利用いただきたいと思います。

就職援助事業の現場より ～第30回職業講話～

令和7年6月15日（日）センターにて第30回職業講話「税金について知ろうⅡ」を行いました。税金に関する講座は2回目です。今回も税理士の飛田慶一先生に講師をお願いしました。もともと帰国者の方から、「ふるさと納税」について知りたいとの要望があり、開催した税金関連講座第2弾でしたが、ふるさと納税の他に、所得税、贈与税、投資にかかる税についても解説していただきました。今年は「103万円の壁」も変わります。情報は大切です。



<職業講話の様子>

普及啓発事業からのお知らせ

令和7年11月24日（月・祝）に日比谷コンベンションホールにて、「中国残留邦人等への理解を深める集い③ 東京くあなたの隣にいる『帰国者』のことを知っていますか？」を開催いたします。詳しい内容は決まり次第、首都圏センターホームページに掲載する予定です。



<令和6年度栃木でのシンポジウムの様子>



ご寄附のお願い

当財団では国の委託事業のほか、孤児を育てていただいた中国の養父母への扶養費送金、孤児が訪中し養父母をお見舞いするお見舞い訪中事業、就学援助、団体助成老後支援事業等さまざまな事業を行っております。これらの事業を推進するにあたっては、皆様から寄せられた浄財を充当しており、多くのご支援が必要です。当財団事業にご理解をいただきご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

寄附金の送金方法（一般寄附）

(1) 郵便局をご利用される場合

郵便振替口座番号 00190-0-64863

加入者氏名 公益財団法人 中国残留孤児援護基金

(2) 取扱銀行をご利用される場合（一般寄附）

振込先名義 公益財団法人 中国残留孤児援護基金

みずほ銀行 (新橋支店 普通預金 No. 778162)

三井住友銀行 (東京公務部 普通預金 No. 22640)

三菱UFJ銀行 (本店 普通預金 No. 7644778)

当財団は内閣府から「公益財団法人」の認定を受け、個人・団体・企業からの寄附金に対し、法令に基づき減免税措置が行われます。

※ご注意

個人情報保護の観点より、銀行に寄附金をお振込いただいた方のご連絡先等を銀行から当財団に教えていただけないため、領収書、お礼状をお届けできない事態が生じております。

銀行に寄附金をお振込いただいた方で、長期間領収書が届いていない方は、お手数ですが中国残留孤児援護基金事務局まで、ご連絡先等をお知らせ下さい。

寄付者芳名録にお名前の掲載を希望されない方及び機関紙の送付を希望されない方は、援護基金事務局 電話 03-6667-0552 までその旨ご連絡をお願い致します。

『援護基金』第88号 令和7年8月20日発行

編集・発行 公益財団法人 中国残留孤児援護基金

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目6番8号

Imas Works Bakurocho 4階

電話 03-6667-0552

FAX 03-6667-0553

<https://www.engokikin.or.jp/>